

海人の暮らしとサンゴ礁の海

海人はサンゴ礁の海でどのようにして漁をおこなったのでしょうか？

魚をとる！Q&A

どこでとる？

沖縄の海の特徴であるイノーを含む海の浅いところから深いところには、たくさんの魚がすんでいる。サンゴ礁の海は、場所によってすんでいる魚がちがうから、魚がとれる場所もちがう。魚が集まる場所をよく知る海人によって色々な方法で漁が行われたんだよ！

どうやってとる？

場所によっては、舟に乗って魚をとったり、歩きながらつかまえたりする。また、つかまえるための道具もちがう。潜ったりカゴを使ったりしてとる場合は、一人でもできるけど、網を使って追い込む場合は、たくさんの人で行ったんだ！

どんな魚？

イノーでは、たくさんの種類の魚がとれる。魚のほかにも、カニや貝、タコ、海藻もたくさん！

いつとる？

魚の中には、

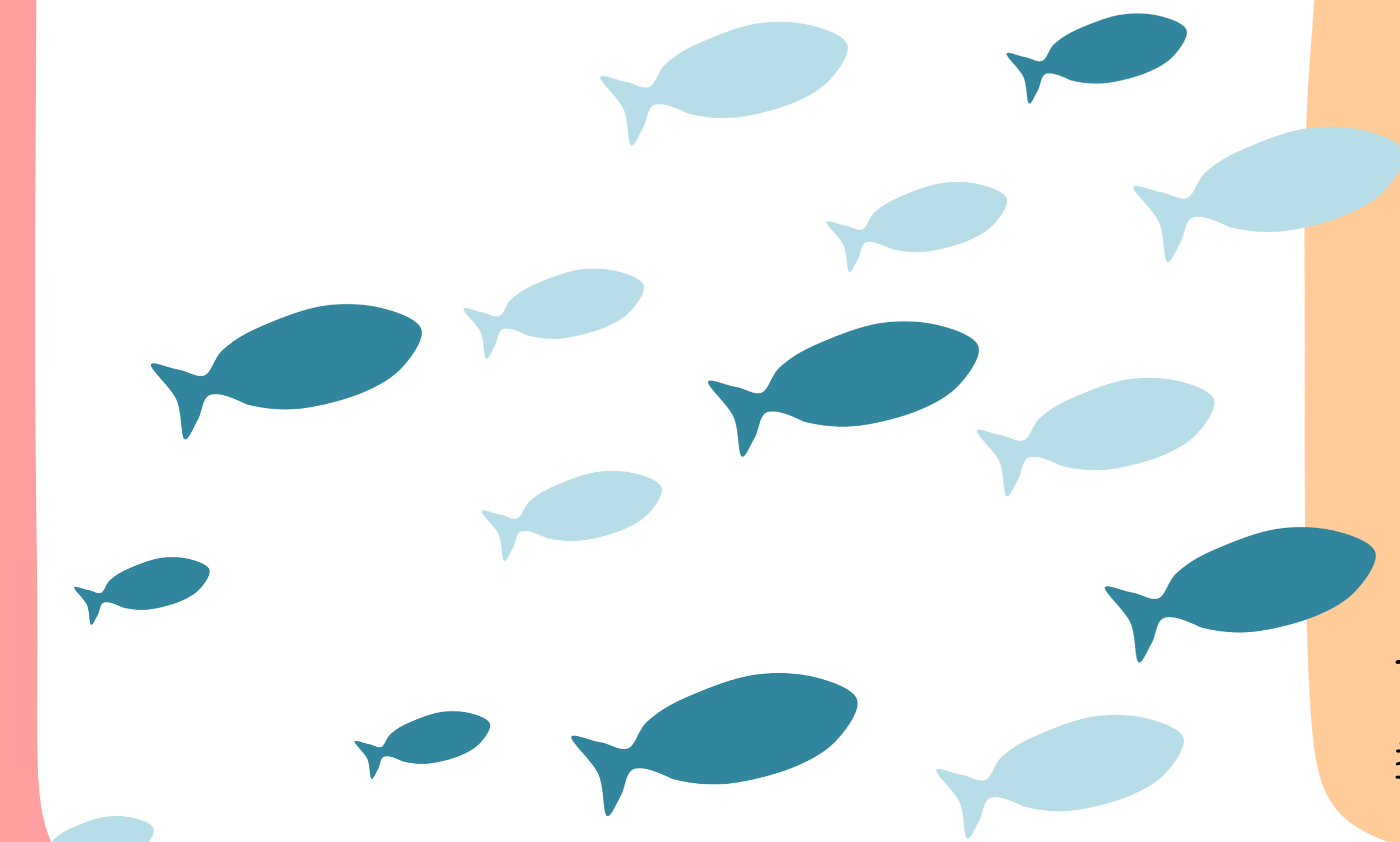
- ・季節に合わせて浅い海と深い海を行ったり来たりする魚
- ・潮の流れに乗って南北に移動する魚
- ・生まれたばかりの時と大きくなってからすむ場所を変える魚

などがいるよ。

そうした魚の行動に合わせて季節ごとに漁が行われるんだ！



磯井藤一氏のサバニ



海人の暮らしとサンゴ礁の海

海人はサンゴ礁の海でどのようにして漁をおこなったのでしょうか？

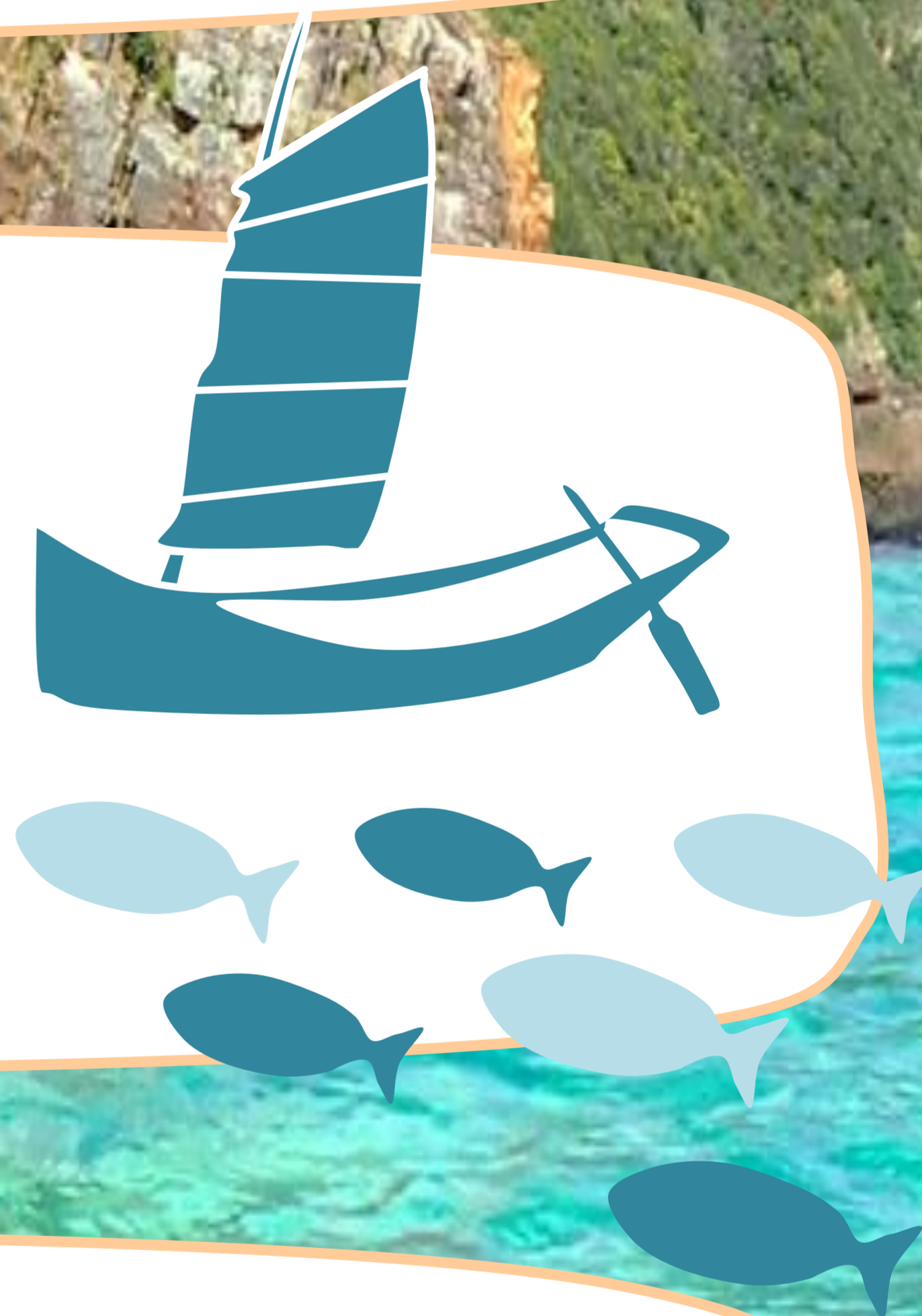
サバニってなあに？



沖縄の伝統的な舟。サバニには、いくつかの種類があるよ。厚い杉の木をつなぎ合わせた舟の底は、とても頑丈！小回りが利き、浅瀬の多いサンゴ礁の海でも舟底が壊れる心配がない。海人たちにとって使いやすく心強い舟だったんだ！

アギヤーってなあに？

一度におおぜいの海人が海に潜って、たくさんの魚を網に追い込んだ。この魚を獲る方法をアギヤーというよ。昔は、たくさんの海人がサバニに乗り込んでアギヤーを行っていたんだ！



年中行事はあるの？

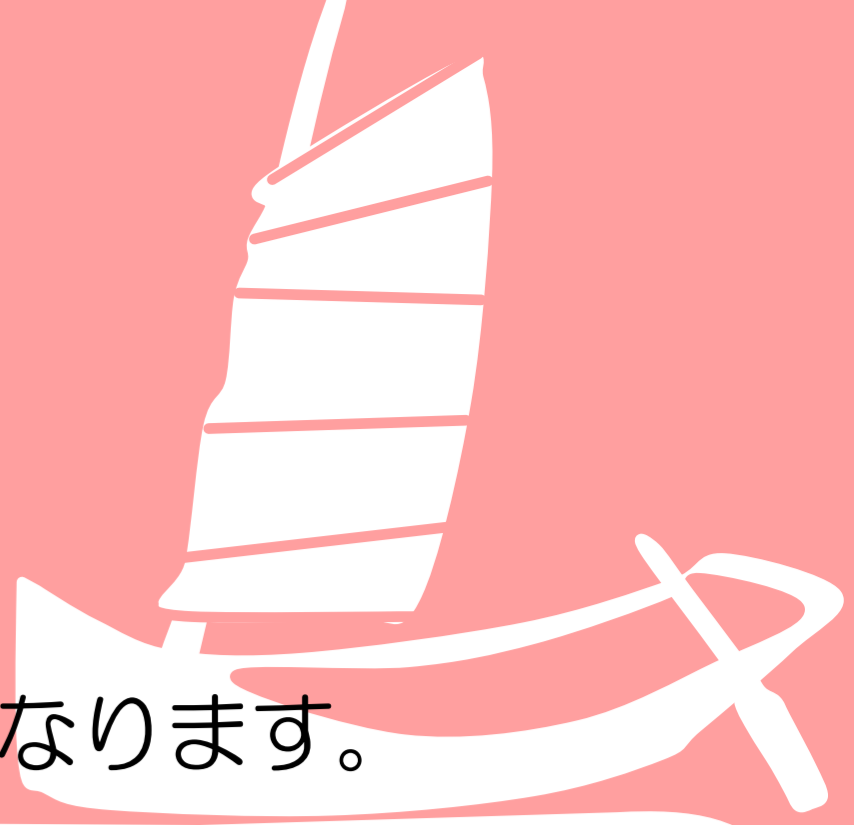
たくさんの魚がとれるように願ったり海の航海の安全などを願ったりする行事がある。こういった行事は、海の近くに住む人や海人の一年の生活リズムとなっている。

また、海のかなたに、もうひとつの世界があるというニライ・カナイの考え方は、海で行われるお祭りや結びについているよ。





海人ってなんだろう？



海で魚を獲る漁師さんなどのように、海とかかわりながら生活をする人のことを
沖縄の方言で「ウミンチュ（海人）」と言います。方言の直訳は、「海の人」となります。

美しいサンゴ礁の海に囲まれた沖縄。人々は、海とともに暮らしてきました。
かつては、糸満の海人を中心に県内外、遠くはフィリピンや南洋諸島（ミクロネシア）の海で活躍しました。

おじい・おばあがなつかしい？！ ～ 昔の海人の道具たち ～

ミーカガン

海人が使った水中メガネ。
沿岸に生えるハマスーキ（モンパノキ）で作られました。海水がしみこまないように、目の周りの形、潜る深さも考えながら形を決めて木を削りました。



クバガサ

ビロウの葉の笠（帽子）です。
白かげのない海では欠かすことができません。
軽くて通気性がとても良い作りとなっています。



ユートウイ

沖縄では湊（アカ＝舟のなかにたまる水）のことをユートと呼びます。ユートウイはそのユートをくみ出す道具です。
舟の底の形に合わせて丸みを帯びた美しい形は、大正時代の民芸運動でも注目されました。



ウェーク

漕ぐだけではなく、舟を操るのに使います。
舟の後ろに座るトゥムヌイ（艫乗り）や漁のリーダーのシンドゥー（船頭）は、一回り大きいウェークを舵としても使います。
イク（モッコク）など木目の細かい木が好まれました。



ウミフゾー

たばこを入れるための入れ物です。枕としても使用されました。
糸満では、カタッパーとも言います。



バーキ

イユウヤー（魚売り）が魚を運ぶためのカゴです。
男の人が獲ってきた魚を女の人が売りました。
バーキに魚を入れ、頭の上へのせ「イユ、コーンチョーラニー（魚を買いませんか～？）」と掛け声をかけながら歩きました。

